

上智大学外国語学部英語学科

沖田朱理（Iコース・東松山市立東中学）

「自信が合格への鍵になる」

私は公募制推薦で上智大学を受験しました。そのため、推薦入試に挑戦する上で大切なことと、受験当日に落ち着いて試験を受けるための方法をお伝えします。

まず推薦入試を受けるにあたって重要なのは、勉強面以外に自分が大学側にアピールできる強みを見つける、または作ることだと思います。私は自分の強みである英語を生かし、グローバル過程に所属していた際には様々な活動に挑戦しました。例えば、オーストラリアへの語学研修、世界学生サミット、全国英作文コンテストなどです。これら数々の経験を経ていたからこそ、自己推薦書や面接で自信を持って自分の実績をアピールできたと思っています。そのため、皆さんも興味ある分野で何か参加できる活動はないか探してみてください。きっとそれは素晴らしい経験になり、受験期には皆さんがアピールできるような強みになるはずです。

もう一つ大切なことは、一般入試と両立させることです。私は3年生の夏休みが終わるまでは3教科の勉強に専念し、秋以降は推薦入試の対策に集中することにしました。そのため、夏に実施された模試では今までで一番良い結果が得られたものの、10月・11月の模試では思うような結果が得られませんでした。秋以降は不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、対策が中途半端な状態で推薦入試を受験してしまうと後々後悔することになると思っていたので、推薦の対策に全力を注ぎました。両立させることは推薦入試を考えている受験生にとって最も大変なことだと思います。思うようにいかない時は、今自分が本当にやるべきことは何か見定め、それに全力を尽くしてください。

最後に、私が受験当日に落ち着いて試験を受けることができた方法を3つ皆さんにお伝えします。1つ目は、試験に慣れることです。私は模試を含め、英検やTEAPなどを数多く受験していたため、「試験」に対して落ち着いて立ち向かうことができました。2つ目は、オープンキャンパスに繰り返し行き、大学の雰囲気慣れることです。当日の受験は受ける大学のキャンパスで行われ

ることが多いと思うので、その大学に慣れておくことは緊張を和らげる1つの方法です。全く知らない場所で受験するのと、少しは慣れている場所で受験するのでは全く気の持ちようが違ふと思います。3つ目は、自分が納得のいくまで対策をすることです。十分に準備し、自信をつけて本番を迎えることが何よりも大切だと私は思っています。学科試験があつたり、小論文が課されたり、面接があつたりと大学によって様々だと思いますが、それぞれ練習を重ねて、自信をつけた上で本番に挑んでください。

受験期は辛いことが多いですが、人が大いに成長できる期間だと思います。この時間を有効に活用し、悔いが残らないよう頑張ってください。応援しています。